

**独立行政法人日本学術振興会 先端研究拠点事業 - 拠点形成促進型 -  
平成16年度 実施計画調査 (採用番号 16005)**

1 研究交流課題名 胸腺器官発生の分子機構

研究交流課題に

係るホームページ：http:// www.tokushima-u.ac.jp/dei/coretocode

2 経費支給期間 平成 16年 4月 1日 ~ 平成 18年 3月 31日( 24ヶ月)

3 実施組織

**日本側**

日 本	研究拠点機関名	徳島大学
	コーディネーター 職・氏名(フリガナ)	教授・高浜洋介 (タカハマヨウスケ)
	協力機関名 (機関数)	理化学研究所、東京女子医科大学、京都大学 ( 3機関)

**相手国側**

ス イ ス	研究拠点機関名	University of Basel
	コーディネーター 職・氏名(フリガナ)	Professor・Georg Hollander (ジョージ ホーランダ)
	協力機関名 (機関数)	University of Birmingham ( 1機関)

オ ラ ン ダ	研究拠点機関名	Leiden University
	コーディネーター 職・氏名(フリガナ)	Professor・Willem van Ewijk (ウィレム バネヴィック)
	協力機関名 (機関数)	 ( 0機関)

オ ー ス ト ラ リ ア	研究拠点機関名	Monash University
	コーディネーター 職・氏名(フリガナ)	Associate Professor・Richard Boyd (リチャード ボイド)
	協力機関名 (機関数)	 ( 0機関)

米 国	研究拠点機関名	University of Miami School of Medicine
	コーディネーター 職・氏名(フリガナ)	Professor・Howard Petrie (ハワード ピトリ)
	協力機関名 (機関数)	University of Georgia, Harvard University  ( 2 機関)

#### 4 全期間(経費終了後5年間を含む)を通じた交流目標

胸腺は、免疫システムにおける自己と非自己の識別を担うTリンパ球の分化を支持する器官である。しかし、胸腺の器官形成機構は明らかではない。本事業では、この分野でこれまで種々の観点から個別の研究を進めてきた研究者が国際的に協力する体制を構築することによって、胸腺の器官形成をもたらす分子機構の全容解明をめざす。この課題は免疫学に残された最大の中核的課題のひとつであり、本研究の成果は、関節リウマチやI型糖尿病など自己寛容の変調による自己免疫疾患や、花粉症など非自己応答の誤作動によるアレルギーに対する根本的治療法の開発に必須である。この目的で、胸腺形成研究に先駆的に取り組んでいる国際的研究者が一堂に会して共同研究を推進し、次世代の若手研究者の育成を図るとともに、本事業の実施を核として日本・ヨーロッパ・オーストラリア・アメリカの四極での定期的国際会合開催をオーガナイズしていく体制を確立する。

#### 5 前年度までの交流活動による目標達成状況(平成15年度採用のみ記入)

## 6 本年度の交流計画の概要

### (共同研究)

Tリンパ球分化支持能という胸腺器官の機能発現機構は、三胚葉由来細胞の連携が必要であるが、その分子機構はまだ殆ど不明である。本計画では、個別に進めてきた胸腺形成分子機構の研究連携を図るため、まず全研究者が交流して共同研究計画の概要を共有することを最大目的としたキックオフ会議を開催する。推進する共同研究の基本方針は、胸腺器官発生に関わる分子群のマウスおよび小型魚類による網羅的同定とその機能解明、および胸腺器官形成に関わるリンパ球移住とリンパ球によるストロマ分化の分子機構解明である。キックオフ会議では、すでに個別に進められている研究プログラムを基盤として、より有効で協力的な共同研究計画の合意確立を図る。

### (セミナー)

研究協力者がすべて参集するキックオフ会議を8月に開催する。キックオフ会議における研究情報交換と議論に加えて、若手研究者を含めて個別の研究者とのあいだで相互に訪問し、研究セミナーを開催する。また、来年度に計画している国際シンポジウムの準備を進める。

### (研究者交流)

各国の研究拠点にて育ちつつある若手研究協力者を相手国の研究室に派遣し共同研究を推進するとともに国際交流の機会を与えることで、次世代の研究者の能力向上を図る。胸腺研究分野での若手研究者を中心に、次世代の国際的な人脈形成が期待される。